



Hewlett Packard
Enterprise

Service Pack for ProLiant クイックスタートガイド

摘要

このガイドでは、Service Pack for ProLiant (SPP) について紹介し、このパックを使用して HPE ProLiant、HPE BladeSystem、HPE Synergy、HPE Apollo サーバーおよびインフラストラクチャ上のファームウェア、ドライバー、およびシステムソフトウェアを更新する方法について説明します。このガイドは、Microsoft Windows、Linux、および VMware の構成や、サーバーとインフラストラクチャのアップデートのメンテナンスと展開について熟知している方を対象としています。

部品番号: 679796-599
発行: 2019 年 3 月
版数: 1

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダー標準の商業用使用許諾のもとで、米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外の情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標

Microsoft[®]および Windows[®]は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

UNIX[®]は、The Open Group の登録商標です。

Linux[®]は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

目次

はじめに.....	5
Service Pack for ProLiant.....	5
SPP リリースのバージョン.....	5
SPP カスタムダウンロード.....	5
プロダクションとポストプロダクション SPP.....	6
SPP サプリメント.....	7
展開モード.....	7
オペレーティングシステムのサポート.....	7
SPP のダウンロードとインストール.....	9
SPP のダウンロード.....	9
SPP カスタムダウンロードのダウンロード.....	9
アップデートを展開する前に.....	9
SUM の使用による SPP の展開.....	10
SPP コンポーネントを展開するための前提条件.....	10
オンライン展開の開始.....	10
オフライン展開の開始.....	11
SPP を展開する他の方法.....	11
SPP のステージ操作.....	12
SPP のステージ操作について.....	12
ISO のマウント.....	12
SPP からのコンポーネントの追加または削除.....	13
SPP の使用シナリオ.....	14
ブート可能な SPP ISO を使用したサーバーファームウェアの更新.....	14
ローカルシステムからのローカルおよびリモートサーバーファームウェアの更新.....	14
HPE Synergy でのファームウェアのアップデート.....	15
スクリプトを使用した Linux サーバーのオンライン更新.....	15
FAQ.....	17
契約または保証の HPE サポートセンターのユーザープロファイルへのリンク.....	17
SPP バージョンの確認.....	17
ISO または解凍としての SPP の使用.....	17
iLO 5 更新オプション.....	17
iLO レポジトリ.....	17
インストールセット.....	18
システムリカバリセット.....	18
システムリカバリセットの作成.....	18
iLO 5 Gen10 のセキュリティ状態.....	19
オンラインモードまたはオフラインモードでの SPP の使用.....	19
ファームウェアコンポーネントまたはソフトウェアコンポーネントのみのインストール.....	20
SUM の使用によるシャーシの更新.....	21
SPP のサイレント展開.....	21
c7000 エンクロージャー全体とそのすべてのコンポーネントのアップグレード.....	21

更新のエンクロージャー順序の更新.....	21
USB Key Utility の使用.....	21
トラブルシューティング.....	24
レポートの生成と表示.....	24
SUM オンラインモードでのログファイルの収集.....	24
SUM オフラインモードでのログファイルの収集.....	24
SUM ログの場所.....	25
USB キーにコピーすると SPP が正常に動作しない.....	26
Active Health System データのダウンロード	26
Active Health System ビューアにログインする.....	27
AHS ログを AHSV にアップロードする.....	27
Web サイトおよびサポート.....	29
Web サイト.....	29
サポートと他のリソース.....	29
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	29
アップデートへのアクセス.....	30
カスタマーセルフリペア (CSR)	30
リモートサポート (HPE 通報サービス)	30
保証情報.....	31
規定に関する情報.....	31
ドキュメントに関するご意見、ご指摘.....	31

はじめに

Service Pack for ProLiant

SPP は、単一の ISO ファイルのダウンロードとして提供されるシステムソフトウェアおよびファームウェアソリューションです。このソリューションは展開ツールとして SUM を使用し、サポートされる HPE ProLiant、HPE BladeSystem、HPE Synergy、HPE Apollo サーバーおよびインフラストラクチャでテストされています。

SPP は SUM および iSUT と連携して HPE ProLiant、HPE BladeSystem、HPE Synergy、HPE Apollo サーバーおよびインフラストラクチャを体系的に更新する、Smart Update システムメンテナンスツールです。

SPP は、Windows、Linux、または VMware vSphere ESXi でオンラインモードで使用することができ、また、ISO ファイルに格納されたオペレーティングシステムでサーバーを起動することで、オフラインモードで使用することができます。

推奨される SPP のダウンロード方法は、<https://www.hpe.com/servers/spp/custom> にある SPP カスタムダウンロードを使用することです。

SPP は、<https://www.hpe.com/servers/spp/download> にある SPP ダウンロードページからもダウンロードすることができます。

詳しくは

[SPP のダウンロード\(9 ページ\)](#)

SPP リリースのバージョン

SPP バージョンは、ほとんどのサーバーの主要なリリースでリリースされ、Hewlett Packard Enterprise のその他のソフトウェア製品のリリースもサポートします。特に古い世代のサーバーで更新の頻度を減らすために、次の 2 種類の SPP をリリースします。

1. 1 つの「プロダクション SPP」(「プロダクションサーバー世代」のサポートを含む)
2. 世代固有の複数の「ポストプロダクション SPP」(1 つの特定の「ポストプロダクションサーバー世代」のサポートを含む) たとえば、Gen8 のみのポストプロダクション SPP には Gen8 専用のファームウェアとドライバーのみが含まれます。

詳しくは、[Reducing the Frequency of Server Updates](#) を参照してください。

詳しくは、<https://h20195.www2.hpe.com/V2/GetPDF.aspx/c03681570.pdf> にある Service Pack for ProLiant (SPP) Support Policy を参照してください。

現在と以前の SPP バージョンについては、次に示す SPP のダウンロードページを参照してください。
<https://www.hpe.com/servers/spp/download>

特定の SPP または SPP サプリメントについては、<https://www.hpe.com/info/spp/documentation> の SPP Information Library にある SPP のリリースノートを参照してください。

SPP カスタムダウンロード

SPP カスタムダウンロードサイトでは、完全な SPP、ベース SPP、またはカスタム SPP をダウンロードすることができます。

- ・ ベース SPP : 元の SPP リリース日付で提供されるすべてのコンポーネントが含まれます。
- ・ 完全な SPP : 「ベース SPP ISO」からのドライバーとファームウェアコンポーネントに加え、すべてのホットフィックス、OS サプリメントおよび MSB が含まれます。
- ・ カスタム SPP : SPP カスタムダウンロードは、SPP をフィルタリングしてダウンロードするオンラインサービスです。次のことができます。
 - 環境に合わせた SPP ダウンロードのカスタマイズ
 - ダウンロードファイルのサイズ縮小
 - コンポーネント用のフィルターの選択
 - SPP サプリメントの追加

オフライン用のカスタムブート可能 ISO を作成するには、必ず以下を選択してください。

- ・ **ブート可能 ISO オプション。**
- ・ すべての Linux オペレーティングシステム（オペレーティングシステムをフィルタリングする場合）。

注記: オフラインモードではファームウェア更新のみが展開されます。

詳しくは

[SPP カスタムダウンロードのダウンロード\(9 ページ\)](#)

プロダクションとポストプロダクション SPP

プロダクション SPP

プロダクションサーバー世代（最新および 1 つ前）は、HPE が新しいテクノロジー、機能、オプション、および OS/ハイパーバイザーの新しいメジャーバージョンのサポートを追加しているサーバー世代です。いずれも、ファームウェア、ドライバー、システムソフトウェアへの新機能の追加または既存の機能の変更や、最新バージョンのリリースに関係するものです。

「プロダクションサーバー世代」のファームウェア、ドライバー、ソフトウェアアップデートには、バグフィックス、セキュリティアップデートや、新機能および OS/ハイパーバイザーの新しいバージョンのサポートが含まれる場合があります、より頻繁なアップデートやテストが必要になります。

ポストプロダクション SPP

ポストプロダクションサーバー世代（2 つ以上前の世代）は、HPE が新しいテクノロジー、機能、オプション、および OS/ハイパーバイザーの新しいメジャーバージョンのサポートを今後追加しないサーバー世代です。サーバー世代がポストプロダクションである場合、そのサーバー世代用のファームウェアやドライバー、システムソフトウェアへの変更は、バグフィックスおよびセキュリティアップデートのみに限定されます。

サーバー世代のポストプロダクションフェーズ中の Smart コンポーネントはあまり頻繁にアップデートされず、問題解決のためのみにリリースされます。

ポストプロダクションサーバー世代の場合、HPE はそのサーバー世代の Smart コンポーネントバージョンをフリーズし、そのサーバー世代用の「ポストプロダクション SPP」をリリースします。Smart コンポーネントのアップデートは、特定の問題を解決するためにのみ、ポストプロダクション SPP に対応する「ホットフィックス」としてリリースされます。

アップデートは特定の問題を解決するためにのみリリースされるため、HPE では、ポストプロダクション SPP に更新してから、お使いのサーバーモデル、OS/ハイパーバイザーのバージョン、および環境に対応する「ホットフィックス」を適用することをお勧めします。

ポストプロダクション SPP は、HPE がお使いのサーバーの世代をサポートし、お客様がポストプロダクションサーバー世代の年度更新を実行する必要がない限り、サポートされます。

表 1: どの SPP を使用すべきですか？

サーバー世代	分類	使用する SPP
Gen10	プロダクション	最新バージョンのプロダクション SPP
Gen9	プロダクション	最新バージョンのプロダクション SPP
Gen8	ポストプロダクション	Gen8 ポストプロダクション
G7	ポストプロダクション	G7 ポストプロダクション
G6 以前	ポストプロダクション	お使いのサーバーモデルの Smart コンポーネントを含む最新のプロダクション SPP を使用します。

SPP サプリメント

SPP サプリメントは、ソフトウェアやファームウェアコンポーネントを含むバンドルです。SPP サプリメントは、通常の SPP のリリースサイクル外で必要とされる機能のサポートを提供します。Hewlett Packard Enterprise は、サプリメントを通じてサポートが必要なときにサポートを提供します。そのため、お客様は次の SPP を待つ必要がありません。SPP のサポートポリシーについては、[Service Pack for ProLiant \(SPP\) Support Policy](#) を参照してください。

バンドル内のコンポーネントに関する情報は、サプリメントのリリースノートに記載されています。

SPP ダウンロードページ <https://www.hpe.com/servers/spp/download> から各 SPP のサプリメントをダウンロードします。

Linux コンポーネントも <https://www.hpe.com/servers/sdr> の Software Delivery Repository (SDR) で入手できます。

リリースノートは、<https://www.hpe.com/info/spp/documentation> の SPP Information Library にあります。

SUM の最新バージョンは、SUM のダウンロードページ <https://www.hpe.com/servers/sum-download> でダウンロードできます。

展開モード

サーバーファームウェアはオンラインモードまたはオフラインモードで更新できます。展開モードについて詳しくは、<https://www.hpe.com/info/sum-docs> で提供されている Smart Update Manager ユーザーガイドを参照してください。

オペレーティングシステムのサポート

SPP リリースには、SPP に含まれるアップデートを展開できるバージョンの SUM が含まれます。SUM は、Windows、Red Hat Enterprise Linux、および SuSE Linux Enterprise Server のサポートされるバージョンで実行できます。バージョンおよびシステム要件については詳しくは、SUM Information Library の Web サイト <http://www.hpe.com/info/sum-docs> にある Smart Update Manager リリースノートを参照してください。

システム要件、前提条件、およびサポートされるオペレーティングシステム、サーバー、デバイスについては、SPP Information Library の Web サイト <http://www.hpe.com/info/spp/documentation> にある SPP リリースノートおよびサーバーサポートガイドを参照してください。

HPE ProLiant サーバー向けのオペレーティングシステムおよび仮想化ソフトウェアのサポートについては、<http://www.hpe.com/info/ossupport> の OS サポートサイトを参照してください。

SPP を使用して VMware システムを更新する方法については、**SPP Information Library** にある VMware: Best Practices for maintaining firmware, drivers and system software using the SPP and the SDR を参照してください。

SPP 2018.09.0 リリースは、VMware ESXi 6.0 および 6.5 を実行している Gen10 サーバー向けに iLO 5 を使用した更新をサポートしています。

SPP 2018.11.0 リリースは、VMware ESXi 6.0、6.5、および 6.7u1 を実行している Gen10 サーバー向けに iLO 5 を使用した更新をサポートしています。

SPP のダウンロードとインストール

SPP のダウンロード

手順

1. Web ブラウザーを開き、http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl にアクセスしてください。
2. ダウンロードするファイルを選択します。
3. 必要な場合、製品の資格認証情報を提供します。
4. ファイルをシステムのディレクトリに保存します。

SPP へのアクセスは、HPE サポートセンターを介して確認する必要があります。アクティブ保証または HPE のサポート契約は、SPP をダウンロードするために必要とされます。詳しくは、[SPP 保証/サポート契約の確認](#)に関するドキュメントを参照してください。

SPP カスタムダウンロードのダウンロード

以下の設定が可能です。

- ・ カスタム SPP を作成する。
- ・ 使用可能なファイルをダウンロードする。
- ・ カスタム SPP を削除する。デフォルトの SPP は、ページから削除できません。

SPP カスタムのダウンロードページのヘルプについては、[SPP カスタムダウンロードの FAQ](#) ページを参照してください。

手順

1. Web ブラウザーを開き、<https://www.hpe.com/servers/spp/custom> にアクセスしてください。
2. SPP へのアクセスは、HPE サポートセンターを介して確認する必要があります。アクティブ保証または HPE のサポート契約は、SPP をダウンロードするために必要とされます。詳しくは、[SPP 保証/サポート契約の確認に関するドキュメント](#)を参照してください。HPE パスポートへのログインが必要です。
3. 必要に応じて、[HPE パスポートサインイン](#)をクリックして、HPE パスポートユーザーの認証情報を入力します。
4. ページの左側から、SPP を選択します。

アップデートを展開する前に

ビジネスクリティカルなサーバーや複雑なまたは分散された環境内のサーバーに更新を展開する前に

- ・ 更新計画を作成することでダウンタイムを最小限に抑えます。
- ・ システムの最新のバックアップが利用できることを確認します。

詳しくは、<http://www.hpe.com/info/sum-docs> で提供されているベストプラクティスガイドを参照してください。

SUM の使用による SPP の展開

SPP を使用してターゲットへの展開を開始するために、オンラインモードとオフラインモードのどちらを使用するかを決定します。

- ・ オンラインモードでは、SUM は、ホストサーバーが使用する Windows または Linux オペレーティングシステム上で実行します。
- ・ オフラインモードでは、サーバーは SPP ISO イメージに含まれる、小規模 Linux ブート環境で起動します。このオペレーティングシステムは、ISO に含まれるバージョンの SUM を実行できます。オフラインモードでは、ファームウェア Linux コンポーネントを展開できます。
 - オフライン自動モードでは、SUM はユーザーの介入なしにコンポーネントを展開します。
 - オフラインの対話型モードでは、画面の指示に従ってコンポーネントを更新します。

展開モードについて詳しくは、<https://www.hpe.com/info/sum-docs> の Smart Update Manager ユーザーガイドを参照してください。

SPP コンポーネントを展開するための前提条件

SPP の前提条件については、<http://www.hpe.com/info/spp/documentation> の SPP Information Library にあるリリースノートを参照してください。

SUM の前提条件については、<http://www.hpe.com/info/sum-docs> にある Smart Update Manager リリースノートを参照してください。

オンライン展開の開始

注記: EULA ファイルは、ISO イメージの EULA ディレクトリにあります。このファイルは、サポートされている Web ブラウザーで表示できます。

手順

1. SPP を USB キー、ハードディスクドライブ、またはファイルシステムにコピーします。
2. ISO のルートから SUM を起動します。
 - a. `launch_sum.bat`
(Windows)
 - b. `./launch_sum.sh`
(Linux)



ヒント: ファームウェアまたはソフトウェアのみをアップデートする場合は、コマンドラインから次のコマンドを実行してサーバーをアップデートできます。

- ・ `smartupdate /s /romonly` - この属性を指定すると、SUM はインストールに必要なファームウェアコンポーネントだけを展開します。
- ・ `smartupdate /s /softwareonly` - この属性を指定すると、SUM はインストールに必要なソフトウェアコンポーネントだけを展開します。

注記: これらの例は Windows システム用です。Linux システムを使用している場合は、/を--に置き換えます。たとえば、`smartupdate --s --softwareonly`

詳しくは

[USB Key Utility の使用\(21 ページ\)](#)

[前提条件\(22 ページ\)](#)

[起動可能な USB キーの作成\(22 ページ\)](#)

[起動可能 USB キーへの内容の追加\(23 ページ\)](#)

オフライン展開の開始

手順

1. SPP を USB キー、ハードディスクドライブ、またはファイルシステムにコピーします。USB キーを使用する場合、ISO はブート可能である必要があります。
2. SPP ISO でオペレーティングシステムが起動するようにサーバーを起動します。
3. 自動モードまたは対話型モードのいずれかを選択します。
 - a. 自動モードを選択すると、以降は操作しなくてもファームウェアが自動的にアップデートされます。
 - b. 対話型モードを選択する場合は、画面の指示に従います。
4. SUM を使用して、更新をサーバーに展開します。SUM の使用について詳しくは、<http://www.hpe.com/info/sum-docs> で提供されているユーザーガイドを参照してください。

詳しくは

[USB Key Utility の使用\(21 ページ\)](#)

[前提条件\(22 ページ\)](#)

[起動可能な USB キーの作成\(22 ページ\)](#)

[起動可能 USB キーへの内容の追加\(23 ページ\)](#)

SPP を展開する他の方法

以下のツールを使用して SPP を展開することもできます。

- ・ HPE SIM : HPE SIM 経由の SPP アップデートの展開については、<http://www.hpe.com/info/insightmanagement/sim/docs> を参照してください。
- ・ HPE OneView : HPE OneView がサーバーを管理している場合は、HPE OneView を使用してサーバーを更新します。詳しくは、<http://www.hpe.com/info/oneview/docs> を参照してください。

SPP のステージ操作

SPP のステージ操作について

SPP をダウンロードした後で、SPP の更新と展開のステージを決めます。各環境の展開プロセスに最適なステージ方法を選択してください。

注記: ProLiant コンポーネントの構成設定を保存する場合は、デフォルトディレクトリが読み取り専用でないことを確認してください。また、SUM を使用して、コンポーネントの設定を構成して別のディレクトリに保存することもできます。

- ・ **起動可能な USB キーの作成** - ISO をブート可能な USB キーに抽出することは、単一または少数のサーバーに物理的にアクセスできる場合に、SPP を利用可能にするもっとも簡単な方法です。USB キーは書き込み可能なので、すべての SPP コンポーネントに適しています。
 - Windows - SPP に含まれている USB Key Utility を使用します。
 - Linux - SYSLINUX を使用します。
- ① **重要:** OA を使用する場合は、SPP を USB キーに直接コピーし、ISO パッケージのまま保存してください。最大 ISO サイズは 4 GB です。ISO が大きすぎる場合は、SUM を使用してカスタム ISO を作成します。
- ・ **ISO のマウント** - ローカルファイルシステムからの ISO のマウントは、ターゲットサーバーでオペレーティングシステムが動作しており、そのサーバーにネットワーク経由でアクセスできる場合に、SPP からコンポーネントをインストールする最も簡単な方法です。手順については、[ISO のマウント](#) (12 ページ)を参照してください。
- ・ **SPP のハードディスクドライブへのコピー** - ISO をハードディスクドライブにコピーしておく、SPP をリモートサーバーの更新に向けて準備する際に便利です。ハードディスクドライブは書き込み可能なので、すべての SPP コンポーネントに適しています。

詳しくは

[USB Key Utility の使用](#)(21 ページ)

[前提条件](#)(22 ページ)

[起動可能な USB キーの作成](#)(22 ページ)

[起動可能 USB キーへの内容の追加](#)(23 ページ)

ISO のマウント

ISO ファイルをマウントすることにより、ISO の内容に直接アクセスできます。

手順

1. サーバーがファイルにアクセスできるように ISO をマウントします。
2. マウントしたディレクトリの最上位フォルダを開きます。
3. SUM を実行するには、`launch_sum.bat` をダブルクリックするか (Windows)、ターミナルウィンドウで `./launch_sum.sh` を実行します (Linux)。

注記: ISO をマウントしてから、ISO からハードディスクドライブにファイルをコピーすることもできます。ファイルをコピーしたら、ハードディスクドライブでコピーされた場所のディレクトリパスから SUM を起動できます。この場合、SUM が起動された SPP がベースラインとしてデフォルトで追加されます。

マウントされた場所または展開された場所へのパスを指定すると、別の SPP を現在の SUM インスタンスにベースラインとして追加できます。

SPP からのコンポーネントの追加または削除

個別手順の情報は、<http://www.hpe.com/info/spp/documentation> にある SUM ベストプラクティス実装ガイドから入手できます。

次のような場合には、SPP のコンポーネントを追加または削除できます。

- ・ SPP に含まれていないホットフィックスまたは新たにリリースされたコンポーネントをご使用の SPP ベースラインに挿入する。

注記: この場合、SUM を起動する前に、SPP からコンポーネントを追加または削除します。コンポーネントまたはホットフィックスを SPP に追加すると、SUM では追加パッケージとして識別されます。ノードのベースラインとして、SPP と追加パッケージの両方を選択する必要があります。

SPP と追加パッケージを使用してカスタムベースラインを作成すると、ホットフィックスを含む単一のベースライン ISO を作成することもできます。

- ・ 必要なファイルだけが確実にシステムにロードされるようにする（これにより、トラブルシューティングが必要な場合に、変更の追跡が容易になることがあります）。
- ・ 他社製品との互換性を維持する。たとえば、FC HBA に対する更新版が Hewlett Packard Enterprise からリリースされたときに、外部スイッチのベンダーがこの更新版をサポートしていない場合、この更新版を削除することによってスイッチベンダーのサポートを継続して受けることができます。

SPP の使用シナリオ

この章では、SPP の典型的な使用を示す高度な手順について説明します。これらのシナリオを活用すると、SPP について学習したり、SPP を使用するためにインストール手順と更新手順を適応させたり、ご使用の環境での SPP の使用を評価したりすることができます。

注記:

機能やインターフェイスは SPP リリースに含まれる SUM のバージョン間で変わることがあることに注意することが重要です。シナリオは、ご使用の環境に一致しない場合があります。<http://www.hpe.com/info/spp/documentation> にある各 SUM バージョンに対応した詳細手順を参照してください。

ブート可能な SPP ISO を使用したサーバーファームウェアの更新

このシナリオは、SUM のプリインストール環境によって識別されたファームウェアを更新するブート可能方法を使用してサーバーファームウェアを更新します。これは、オペレーティングシステムなしでシステムをインストールまたは更新する場合に最適な方法です。

手順

1. SPP ISO をダウンロードします。
2. ターゲットシステムを決定し、iLO 経由で接続します。
 - a. ターゲットシステムのコンソールに接続します。
 - b. ブート可能な SPP ISO を iLO 仮想メディアに接続します。
3. サーバーを ISO から起動します。
4. サーバーがプリインストール環境から起動したら、自動モードまたは対話型モードを選択します。対話型モードを選択すると、SUM の GUI が起動します。自動モードを選択すると、SUM はユーザーの入力なしでアップデートを展開します。
5. 対話型モードでは、以下の操作を行います。
 - a. SUM は SPP レポジトリをスキャンします。
 - b. SUM はローカルマシンをスキャンして、古いファームウェアコンポーネントを検出します。
 - c. SUM は、インストールされているファームウェアコンポーネントに対して使用できるファームウェアコンポーネントのレポートを提供します。
 - d. SUM は依存関係を識別し、ファームウェアを更新します。
6. 詳しくは、<https://www.hpe.com/info/sum-docs> で提供されている Smart Update Manager ユーザーガイドを参照してください。

ローカルシステムからのローカルおよびリモートサーバーファームウェアの更新

この方法で、ローカルホストサーバーおよびリモートサーバーを更新します。ローカルシステムから SUM を起動し、SUM を使用してベースラインとサーバーを追加し、サーバーのインベントリを作成して

から、更新を展開します。このプロセスでは、オンラインサーバーを再起動する必要はありません。通常、このタイプの更新は、インフラストラクチャファームウェアの更新に使用されます。ただし、特定のファームウェアまたはドライバーをアクティブ化するには、システムの再起動が必要な場合があります。SUMには、展開前にリブートオプションを設定するオプションが用意されています。このオプションを使用するか、計画的ダウンタイムに基づいてスケジュールできます。

手順

1. 完全な SPP ISO をダウンロードします。
2. ISO をローカルのディレクトリまたは共有に解凍するか、ISO をローカルの仮想ドライブにマウントします。
3. ルートディレクトリで `launch_sum.bat` (Windows) をダブルクリックするか、同じ場所でターミナルから `./launch_sum.sh` (Linux) を使用して、画面上の指示に従います。
4. 前の手順では、SUM を起動し、SPP ISO をベースラインとして追加します。SUM によるベースラインのインベントリが終了したら、次の手順に進みます。詳しくは、<https://www.hpe.com/info/sum-docs> で提供されている Smart Update Manager ユーザーガイドを参照してください。
5. インベントリを作成して更新する BladeSystem シャーシの OA の IP アドレスを取得します。
6. SUM のノード画面でノードの追加をクリックし、サーバーの情報を入力します。
Gen10 サーバーは iLO 5 情報を表示し、インストールセット、iLO 5 を管理するアクションを含み、iLO レポジトリから保存済みインストールセットを展開します。
7. アクション > インベントリの順にクリックします。
8. SUM でインベントリ作成プロセスが終了したら、サーバーで使用可能な更新がある場合は、アクション > レビュー/展開の順にクリックします。
9. SUM は、自動的に更新を選択します。適用する更新を選択するか、適用しない更新を選択解除します。
10. 展開をクリックしてインストールを開始します。

HPE Synergy でのファームウェアのアップデート

SPP を使用すると、HPE Synergy のファームウェアをアップデートできます。HPE Synergy カスタム SPP は、HPE Synergy に合わせて作成された完全 SPP のサブセットであり、HPE Synergy ソリューションに適用するすべてのホットフィックスを含みます。HPE Synergy カスタム SPP は、ベースラインとしてエンクロージャー、インターコネクト、およびサーバープロファイルに適用することができ、デバイスにわたってファームウェアおよびドライバーの目的のバージョンを決定します。

Hewlett Packard Enterprise では、<http://www.hpe.com/downloads/synergy> にある適切なソフトウェアリリースから HPE Synergy カスタム SPP を使用することをお勧めします。HPE Synergy ファームウェアのアップデートについて詳しくは、HPE Synergy ファームウェアアップデートの概要 (<http://www.hpe.com/info/synergy-firmware-update-overview-ja>) および HPE Synergy ファームウェアとドライバー更新のためのベストプラクティス (<http://www.hpe.com/info/synergy-docs>) を参照してください。

スクリプトを使用した Linux サーバーのオンライン更新

この方法は、入力ファイルを使用して、スクリプト方式でオンライン Linux サーバー用のすべてのソフトウェアコンポーネントを更新します。SUM を Windows サーバーから起動する場合は、類似のプロセスを Windows サーバーにも使用できます。スクリプト式入力ファイルは、Windows 環境と Linux 環境の両方で類似しています。

Gen10 サーバーでは、iLO レポジトリにインストールセットを保存できるパラメーターを追加できます。

手順

1. ブート可能な SPP ISO をダウンロードします。
2. SPP ISO をローカルディレクトリまたは共有に解凍またはマウントするか、ISO をローカルの仮想ドライブにマウントして、SUM にアクセスします。
3. コマンドラインオプションに基づいて入力ファイルを準備します。例：

```
REBOOTALLOWED = YES
REBOOTREQUIRED = YES
REBOOTDELAY = 15
BUNDLESLIST = bp001190.xml
SAVEINSTALLSET = YES
```

4. SUM コマンドラインオプションについては、<https://www.hpe.com/info/sum-docs> で提供されている Smart Update Manager 8.4.0 CLI および対話型 CLI ガイドを参照してください。
5. 入力ファイルを使用して SUM を起動します。

```
./smartupdate --s --softwareonly --inputfile <入力ファイル名のフルパス>
```

`softwareonly` スイッチを指定すると、SUM はドライバーやエージェントのようなソフトウェアコンポーネントを更新します。

6. 入力ファイルの完全なファイルパスを指定します。詳しくは、<http://www.hpe.com/info/sum-docs> で提供されている Smart Update Manager 8.4.0 CLI および対話型 CLI ガイドを参照してください。

FAQ

契約または保証の HPE サポートセンターのユーザープロフィールへのリンク

SPP をダウンロードするには、お使いのサーバーを対象とする有効な契約または保証を HPE サポートセンターのユーザープロフィールにリンクする必要があります。これにより、HPE のダウンロード、ナレッジ、および SPP などのツールにアクセスできます。詳しくは、[HPE の利用制限の情報とダウンロードを利用するために、契約と保証を HPE サポートセンターのユーザープロフィールにリンクする方法](#)を参照してください。このガイドの手順では、契約または保証を HPE サポートセンターのユーザープロフィールにリンクする方法について説明しています。

SPP バージョンの確認

手順

SUM のベースラインライブラリに、ベースラインとして SPP を追加します。SUM により、SPP のバージョンが表示されます。

ISO または解凍としての SPP の使用

このツールは、SPP が ISO または解凍されたファイルのどちらを使用するかを決定します。SPP が ISO フォーマットまたは解凍された状態である必要があるかどうかは、使用されるツールによって異なります。例えば、iLO 仮想メディアは ISO から起動されます。

iLO 5 更新オプション

iLO 5 を搭載する Gen10 サーバーでは、サーバーを 2 つの方法で更新することができます。

- ・ SUM を備えたオペレーティングシステムを介して更新を展開します。
- ・ iLO 5 を介して更新を展開します。SUM は、iLO 5 のアップデートをロードします。統合 Smart Update ツール (iSUT) は、iSUT モードに基づいてアップデートを展開します。これには以下が必要です。
 - iSUT 2.0.0.0 以降
 - AMS 管理ツール

注記: Windows Server 2019 の場合、AMS バージョン 1.30.0.0 (B) 以降をインストールする必要があります。

iSUT について詳しくは、<http://www.hpe.com/info/isut-docs> を参照してください。

iLO レポジトリ

iLO レポジトリは、システムボードに埋め込まれた不揮発性フラッシュメモリ内の安全なストレージ領域です。不揮発性フラッシュメモリはサイズが 4 ギガバイトで、iLO NAND と呼ばれます。SUM または iLO を使用して、iLO レポジトリ内の署名済みソフトウェアおよびファームウェアコンポーネントを管理します。

iLO、UEFI BIOS、SUM および他のクライアントソフトウェアは、これらのコンポーネントを取得し、サポートされているサーバーに適用できます。SUM を使用して、インストールセットに保存するコンポーネントを整理し、SUM または iLO を使用してインストールキューを管理します。

iLO、SUM、および BIOS ソフトウェアがどのように連携してソフトウェアとファームウェアを管理するかについて詳しくは、[SUM のドキュメント](#)を参照してください。

インストールセット

インストールセットは、1つのコマンドでサポートされるサーバーに適用できるコンポーネントのグループです。SUM を使用してインストールセットを作成します。iLO を使用して既存のインストールセットを iLO Web インターフェイスに表示できます。

SUM から展開する際に、インストールセットを保存すると、iLO システム上にすべてのコンポーネントが保持されるので、元の SPP を検索することなく、後で使用して、コンポーネントバージョンを復元、またはロールバックできます。

iLO、SUM、および BIOS ソフトウェアがどのように連携してソフトウェアとファームウェアを管理するかについて詳しくは、[SUM のドキュメント](#)を参照してください。

システムリカバリセット

デフォルトでは、システムリカバリセットがすべてのサーバーに付属します。リカバリセット権限を持つユーザーアカウントは、このインストールセットを構成できます。システムリカバリセットは同時に1つのみ存在できます。

インテルサーバー用のデフォルトのシステムリカバリセットには、以下のファームウェアコンポーネントが含まれます。

- ・ システム ROM (BIOS)
- ・ iLO ファームウェア
- ・ システムプログラマブルロジックデバイス (CPLD)
- ・ Innovation Engine
- ・ サーバープラットフォームサービス (SPS) ファームウェア

AMD サーバー用のデフォルトのシステムリカバリセットには、以下のファームウェアコンポーネントが含まれます。

- ・ システム ROM (BIOS)
- ・ iLO ファームウェア
- ・ システムプログラマブルロジックデバイス (CPLD)

デフォルトのシステムリカバリセットが削除されている場合

- ・ リカバリセット権限を所有しているユーザーは、iLO RESTful API および RESTful Interface Tool を使用して iLO レポジトリに保存されているコンポーネントからシステムリカバリセットを作成することができます。
- ・ リカバリセット権限を持つユーザーは、SUM を使用してインストールセットを作成し、iLO RESTful API を使用してそれをシステムリカバリセットとして指定できます。

手順については、オプションキットの [SUM ドキュメント](#)を参照してください。

システムリカバリセットの作成

更新ツールを使用してインストールセットを iLO レポジトリに保存します (例えば SUM)。

前提条件

- ・ iLO でのリカバリセットアクセス許可。
- ・ iLO レポジトリ内に保存されるインストールセット。
- ・ iLO RESTful API。

手順

1. iLO RESTful API を開きます。
2. リカバリセットとして定義されているインストールセットがある場合、PATCH コマンドを使用して、IsRecovery パラメーターを false に定義します。

```
PATCH /redfish/v1/UpdateService/InstallSets/[install_set_ID]/  
  
{  
  "IsRecovery": false  
}
```

3. PROMOTE コマンドを使用して、保存したインストールセットの IsRecovery パラメーターを true に変更します。

```
PROMOTE /redfish/v1/UpdateService/InstallSets/[install_set_ID]/  
  
{  
  "IsRecovery": true  
}
```

iLO 5 Gen10 のセキュリティ状態

Gen10 ノードを SUM に追加すると、iLO とホストオペレーティングシステム間の通信は、CHIF インターフェイスを介して行われます。iLO のセキュリティ状態に応じて、通信は次のモードで動作します。

通常モード (稼働モード)

通常モードでは、通信は暗号化されません。

セキュアモード

セキュアモード (高セキュリティ、CNSA SuiteB、FIPS) では、iLO とホストオペレーティングシステム間の通信は暗号化され、承認および認証されます。

SUM がセキュアモードで調査、インベントリ、iLO へのアップデートの展開を実行できるように、iLO 管理者の認証情報を入力します。

Gen10 サーバーセキュリティモードについて詳しくは、<https://www.hpe.com/info/sum-docs> の HPE Gen10 セキュリティリファレンスガイドを参照してください。

オンラインモードまたはオフラインモードでの SPP の使用

オンラインモードでは、通常のサーバー環境でホストプロセッサが動作している状態で、インストールが行われます。サーバーで Microsoft Windows Server 2012 が実行され、その環境でアップデートが行われる場合などが該当します。ファームウェアの更新のためにサーバーを起動して特別な環境に入れる必要はありません。ただし、ファームウェアをアクティブにするために、ターゲットを再起動しなければならない場合があります。可能な限り、オンラインモードを使用することをおすすめします。

オフラインモードでは、ファームウェアの更新のみをサポートしています。SUM は、小さな Linux カーネルを起動し、単一のサーバーにファームウェア更新を展開します。オフラインモードは、単一レポジトリを使用するローカルシステムのみを更新できます。通常のローカルホストオペレーティングシステム

を必要とする一部の SUM 機能は、サポートされません。以下の状況にあり、必要な場合に、オフラインモードを使用することをおすすめします。

- ・ オフラインモードのみでサポートされているコンポーネントのインストールまたは更新。
- ・ ターゲットにサポートされるまたは機能するオペレーティングシステムがない。

ファームウェアコンポーネントまたはソフトウェアコンポーネントのみのインストール

SUM を使用して、ファームウェアコンポーネントまたはソフトウェアコンポーネントを別個に展開することができます。

GUI モードで、ファームウェアコンポーネントまたはソフトウェアコンポーネントだけを含むカスタムベースラインを作成します。

CLI モードで、次のコマンドを使用します。

手順

1. `smartupdate /s /romonly`

このフィルタースイッチでは、SUM インストールに必要なファームウェアコンポーネントだけを展開します。

2. `smartupdate /s /softwareonly`

このフィルタースイッチでは、SUM インストールに必要なソフトウェアコンポーネントだけを展開します。

注記: これらのコマンドは Windows 用です。Linux ノードからアップデートを展開する場合は、/を--に置き換えます。例: `smartupdate --s --softwareonly`

注記: SUM 使用の詳細については、Smart Update Manager CLI ガイドを参照してください。

SUM の使用によるシャーシの更新

手順

SUM は、更新の開始前に、ターゲットに対して依存性チェックを実行してすべての依存関係が満たされていることを確認します。また、SUM の検出プロセスでは、ターゲットで必要な更新が検出され、SUM が更新を正しい順序で行えるようになります。

SPP のサイレント展開

手順

SUM CLI と入力ファイルモードには、それぞれ `/s` パラメーターがあります。オフラインモードで、自動モードを使用してファームウェアをインストールします。これらのモードの使用については、Smart Update Manager CLI User Guide を参照してください。

c7000 エンクロージャー全体とそのすべてのコンポーネントのアップグレード

SUM は、すべてのサーバーファームウェアをオンラインモードで更新します。SUM は、OA を NIC インターフェイス経由ではなく OA インターフェイス経由で更新します。SPP は、サーバーファームウェアの更新に使用するファームウェアバージョンを提供します。

G7 以前のターゲットを更新する場合は、更新するターゲットの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。SUM はターゲット上の OA ホストサーバーのリストを検出します。また、OA ホストサーバーリストにサーバーが追加されている場合は、ターゲットを追加するかどうかをユーザーに尋ねます。

AMS を実行する Gen8 以降のサーバーを使用している場合は、IP アドレスを入力する必要はありません。

更新のエンクロージャー順序の更新

更新の順序は、オペレーティングシステムがすでにインストールされているかどうかと VC ファームウェアバージョンで決まります。

VC ファームウェアのバージョンが 1.34 より古い場合は、OA とブレードを同時にアップデートできます。

VC ファームウェアのバージョンが 1.34~3.00 の場合は、次の手順に従います。

- ・ オペレーティングシステムがない場合は、まず、ブレードインフラストラクチャファームウェア (OA または VC) を更新し、次にブレード (オフライン) を更新します。
- ・ オペレーティングシステムがある場合は、まず OA を更新し、ブレード (オンライン) と VC を同時に更新します。
- ・ VC ファームウェアが 3.00 より大きい場合は、最初に OA ファームウェア 3.00 をインストールする必要があります。

USB Key Utility の使用

USB Key Utility は、Intelligent Provisioning または SPP の内容、およびその他の CD または DVD イメージを USB フラッシュドライブにコピーする Windows アプリケーションです。USB フラッシュドライブにデータをコピーした後、Intelligent Provisioning または SPP を、CD または DVD からではなく、USB フラッシュドライブから実行できるようになります。このプロセスは、ヘッドレスサーバーを操作する場合に役立ちます。また、Web から取得したイメージの内容を必要に応じてカスタマイズできるため、内容の保存、移動、および使用が簡単になります。

ユーティリティをインストールすると、スタートメニューのシステムツールにショートカットが追加されます。

機能

USB Key Utility は以下をサポートします。

- ・ 1 GB より大きな ISO ファイル。
- ・ USB フラッシュドライブのクイックフォーマット機能。
- ・ 最大 32 GB までの USB フラッシュドライブ。32 GB より大きな USB フラッシュドライブはユーティリティに表示されません。

前提条件

USB フラッシュドライブにアプリケーションをインストールするには、サポートされるソース CD、DVD、または ISO と、それらソースの内容を保存できるだけの空きスペースを備えた USB フラッシュドライブを用意する必要があります。USB Key Utility では、メディアまたは ISO イメージよりも大きいストレージ容量 (2 GB 以上) を備える USB 2.0 フラッシュドライブが必要です。

注記: バージョン 2.0 以降の USB Key Utility は、32 ビットオペレーティングシステムをサポートしません。

AutoRun ファイル

AutoRun ファイルはユーティリティから自動的に開始しません。AutoRun ファイルを起動するには、USB キー上の該当する CD または DVD フォルダーで、autorun.exe ファイルをダブルクリックします。

起動可能な USB キーの作成


ユーティリティをインストールすると、USB キー ユーティリティプログラム グループのショートカットが、プログラム スタート メニュー フォルダーに追加されます。

手順

1. **USB Key Utility** ショートカットを USB キー ユーティリティ フォルダーでダブルクリックします。
2. アプリケーションの指示に従い、次の各手順を行います。
 - a. スプラッシュ画面で、**次へ**をクリックします。
 - b. エンドユーザー使用許諾契約書を読んだら、**同意する**を選択し、**次へ**をクリックします。
 - c. **CD/DVD から起動可能な USB キーを作成**を選択し、**次へ**をクリックします。

注記: SUM 6.2.0、SPP 2014.02.0、または、Intelligent Provisioning 1.60 以降で**起動可能な USB キー**にさらに **CD/DVD を追加オプション**を選択しないでください。これらの製品は、シングル デバイスでのマルチブート環境をサポートしなくなりました。

- d. USB フラッシュ ドライブを利用可能な USB ポートに配置します。メディアをオプティカルドライブに挿入するか、ISO イメージをマウントして、**次へ**をクリックします。
- e. ソースのドライブ文字およびターゲット USB フラッシュ ドライブのドライブ文字を選択し、**次へ**をクリックします。

 **ヒント:** ドライブ キーが見つからない場合は、**ターゲットを再スキャン**をクリックするか、新しいドライブ キーを挿入してください。

△ 注意: ターゲット USB キー上のすべてのデータが削除されます。

- f. 警告メッセージ画面で**次へ**をクリックします。

USB フラッシュ ドライブがフォーマットされ、ソース コンテンツが USB フラッシュ ドライブにコピーされます。

- g. README.TXT ファイルを表示するには、**完了**をクリックします。
-

注記: ISO に表示する README.TXT ファイルが 1 つ含まれている場合にのみ、ファイルが表示されます。

起動可能 USB キーへの内容の追加

USB フラッシュ ドライブに十分な使用可能領域があり、UEFI ブートローダー (これは、セキュリティ上の理由で複数のイメージをサポートしません) で機能するコンテンツをロードしていない場合、USB キーユーティリティは、シングル USB フラッシュ ドライブ上で複数のイメージをサポートします。

注記: SUM 6.20、SPP 2014.02.0、および、Intelligent Provisioning 1.60 以降は、シングル デバイスでのマルチブート環境をサポートしなくなりました。SUM、SPP、および、Intelligent Provisioning には、UEFI ブートローダーで動作するために署名された部分が含まれています。この変更により、USB キーなどのシングル デバイス上でのマルチブートセットアップができなくなりました。

手順

1. ブート可能な USB キーの作成の場合の手順に従います。
 2. **USB Key Utility** ショートカットを USB キー ユティリティ フォルダーでダブルクリックします。
 3. アプリケーションの指示に従い、以下の各手順を実行します。
 - a. スプラッシュ画面で、**次へ**をクリックします。
 - b. エンドユーザー使用許諾契約書を読んだら、**同意する**を選択し、**次へ**をクリックします。
 - c. **起動可能な USB キー**にさらに **CD/DVD** を追加を選択し、**次へ**をクリックします。
 - d. USB フラッシュ ドライブを利用可能な USB ポートに配置します。メディアをオプティカルドライブに挿入するか、ISO イメージをマウントして、**次へ**をクリックします。
 - e. ソースのドライブ文字およびターゲット USB フラッシュ ドライブのドライブ文字を選択し、**次へ**をクリックします。
 - f. 情報画面で **次へ**をクリックします。
ソース コンテンツが USB フラッシュ ドライブにコピーされます。
 - g. README.TXT ファイルを表示するには、**完了**をクリックします。
-

注記: ISO に表示する README.TXT ファイルが 1 つ含まれている場合にのみ、ファイルが表示されます。

4. 各ソースメディアまたはイメージで、手順 2 ~ 3 を繰り返して、USB キーに転送します。

トラブルシューティング

レポートの生成と表示

レポジトリの内容、ターゲットのファームウェア、ターゲットのインストールの詳細、および失敗した依存関係について説明するレポートファイルを HTML または XML 形式で作成できます。いずれのファイルも、Microsoft Internet Explorer のような Web ブラウザーで表示できます。レポートでサポートされる Web ブラウザーは、JavaScript 対応の Internet Explorer 6.0 および Mozilla Firefox 3.5 以上です。XML レポートでは、レポート情報を抽出し、他の位置に表示するプログラムを書くことができます。

注記:

すべての画面ですべてのレポートを利用できるわけではありません。レポートが使用できない場合、SUM ではレポートはグレーに表示され、選択できません。

既知の制限事項の一覧は、<http://www.hpe.com/info/spp/documentation> にある SPP Information Library から、使用する環境に合った SPP リリースノートを参照してください。

注記:

ログの収集とレポートの作成についてはバージョン間で違いがあるため、SPP Information Library から使用環境に合った SUM 製品のドキュメントを参照してください。

SUM オンラインモードでのログファイルの収集

SUM は、SUM の問題の判別に役立つことができる内部プロセスおよびデバッグ情報を含む一連のデバッグログファイルを生成します。ログファイルは、%LOCALAPPDATA%\sum (Windows) ディレクトリおよび/var/tmp/sum (Linux) ディレクトリに保存されます。SUM は、SUM がアップデートする機能およびノードごとにログファイルを作成します。

さらに、SUM は Windows イベントログへのログ記録と、Linux および VMware 上の syslog を監査します。OS ログをエクスポートするには、オペレーティングシステムごとに概要を示した手順に従ってください。

SUM は、gatherlogs.bat (Windows) または gatherlogs.sh (Linux) という名前のユーティリティを備えており、すべてのログを使用して圧縮ファイル (Windows では.zip、Linux では tar.gz) を作成します。ログファイルを参照するために、このユーティリティを実行して 1 つのファイルにすべてのログを収集できます。

手順

1. /packages ディレクトリ (SUM を含んでいる) を開き、gatherlogs.bat (Windows) または gatherlogs.sh (Linux) を起動します。
2. 一時停止せずにログを実行する場合は、gatherlogs -s コマンドを使用します。

SUM オフラインモードでのログファイルの収集

手順

1. SPP または SUM をオフラインモードで起動します。
2. CTRL+ALT+D+B+G を押して、SUM GUI からログ収集ユーティリティを起動します。
3. ログを保存するディレクトリを選択します。ログは、別のコンピューターで参照するために、リムーバブルメディアに保存できます。

SUM ログの場所

- ・ SUM のログ
 - Windows の場所 : C:\cpqsystem\sum\log\ - Linux の場所 : /var/log/sum/<ip>/sum_log.txt
 - 指定された IP アドレスにあるノードの最高レベルのユーザーログ。
 - SUM の複数のセッションが同じログファイルに含まれています。
 - 実行されたステップと、システムにインストールされているコンポーネントのサマリーが含まれます。
 - ノードのリターンコードが含まれます。
- ・ SUM の詳細ログ
 - Windows の場所 : C:\cpqsystem\sum\log\ - Linux の場所 : /var/log/sum/<ip>/sum_detail_log.txt
 - IP アドレスにあるノードの詳細レベルのユーザーログ。
 - SUM の複数のセッションが同じログファイルに含まれています。
 - ノード上で実行されている各コンポーネントからの完全な出力が含まれます。
 - 各コンポーネントとそのノードのリターンコードが含まれます。
- ・ SUM のインストール詳細 XML ファイル
 - Windows の場所 : C:\cpqsystem\sum\log\ - Linux の場所 : /var/log/sum/<ip>/SUM_InstallDetails.xml
 - 最新インストールのユーザーの XML バージョンのステータス。
 - 全体的なステータスの詳細が含まれます。
 - インストールされている各コンポーネントについての詳細が含まれます。
- ・ cpqsetup ログ
 - Windows の場所 : C:\cpqsystem\log\cpqsetup.log
 - Linux の場所 : /var/log/sum/Component.log
 - 各コンポーネントの自己検出と、展開されたインストールの詳細が含まれます。
- ・ 個々のコンポーネントによって作成されたその他のログ
 - Windows の場所 : C:\cpqsystem\log*.log
 - Linux の場所 : /var/cpq/*.log
 - Flash.debug.log
 - Verbose.log
 - Cpxxxxxx.log

USB キーにコピーすると SPP が正常に動作しない

症状

SPP が USB キーから起動しない。

アクション

USB キーを ext2 または ext3 としてフォーマットするか、カスタムベースラインを作成し、4 GB より小さいカスタム SPP ISO イメージを作成します。

Active Health System データのダウンロード

HPE サポートは、Active Health System (AHS) ログファイルを問題解決のために使用します。

ケースを送信するための高度な手順は次のとおりです。

1. 次の手順に従い、サポートの問題が発生しているサーバーから AHS ログをダウンロードします。
2. Active Health System ビューアー () に AHS ログをアップロードします。[AHVS への AHS ログのアップロード](#)を参照してください。
3. 自己修復アクションの推奨については、障害検出解析を確認します。詳しくは、AHSV ユーザーガイドを参照してください。
4. AHSV ナビゲーションメニューを使用して、サポートケースを作成します。詳しくは、AHSV ユーザーガイドを参照してください。

Active Health System ダウンロード画面を使用して、AHS テレメトリーデータをサーバーから USB キーにダウンロードします。ログファイルは .ahs 拡張子付きで保存されます。この画面を使って、データ抽出が必要な期間と、送信先メディアとして使用する USB キーを選択します。

iLO を通して接続している場合、仮想デバイスから共有されたローカル接続の USB キーは、AHS ログ情報を保存するために使用できます。

Intelligent Provisioning Active Health System のダウンロードオプションの使用

手順

1. サーバーに USB キーを挿入します。
2. サーバーの起動中に **F10** キーを押して、Intelligent Provisioning を起動します。
3. Intelligent Provisioning の[メンテナンスの実行]画面から **Active Health System ダウンロード**をクリックします。
4. **Active Health System ダウンロード**画面のドロップダウンリストから USB キーを選択します。

注記: [Active Health System ダウンロード]を起動した後に USB キーを挿入した場合は、**再スキャン**をクリックします。

5. メニューからデータの取得期間を選択します。7 日間のデータを取得することをお勧めします。10~15 MB のファイルが作成されます。
6. フォームに連絡先の情報を入力します (任意)。連絡先の情報はカスタマーサービスが支援を提供するために役立ちます。
7. USB キーにデータを保存するには、**ダウンロード**をクリックします。

データがダウンロードされたら、Active Health System Viewer にアップロードします。AHS ログのアップロードについては、[AHVS への AHS ログのアップロード](#)を参照してください。

Active Health System ビューアにログインする

手順

1. AHSV Web ページにアクセスするには、サポートされているブラウザで <http://www.hpe.com/servers/ahsv> にアクセスします。以下では、サポートされているブラウザを示します。

- ・ Internet Explorer 11
- ・ Chrome v51 以降
- ・ Firefox v46 以降

2. ユーザー ID (メールアドレス) と、パスワードを入力してサインインをクリックします。

注記: HPE パスポートアカウントを使用してログインする場合や HPE パスポートアカウントを作成する場合は、<http://www.hpe.com/info/insightonline> にアクセスします。ほとんどの場合、HPE パスポートアカウントは HPE パスポートアカウントの登録プロセス中に使用したメールアドレスと同じです。Hewlett Packard Enterprise サポートセンターでユーザー ID を変更した場合は、必ず、電子メールアドレスではなくユーザー ID でログインしてください。

注記: ログイン認証情報をシステムに記憶させるには、**ログイン情報を記憶**を選択してから**サインイン**をクリックしてください。

AHS ログを AHSV にアップロードする

最大ファイルサイズ制限は 250 MB です。250 MB よりも大きいログについては、HPE サポートセンターまでお問い合わせください。

このタスクを AHSV で実行します。

前提条件


- ❗ **重要:** AHS ログを作成したサーバーには、有効な保証が必要です。サーバーが保証対象外場合、次のエラーメッセージが表示されます。サーバーには資格がありません。次のオプションを確認して、ライセンスを更新してください。オプションは次のとおりです。

- ・ ライセンスをさらに購入する
 - ・ ライセンス購入のための認定パートナーを探す
 - ・ HPE サポートに問い合わせる。
-

手順

1. AHS ログをアップロードを選択します。
2. ログファイルに移動して、**開く**をクリックします。

解析とログロード動作状態を示すウィンドウが表示されます。AHS ログをロードしているとき、画面に予想される完了時間が表示されます。

 ヒント: また、このウィンドウには、さまざまなプラットフォームのビデオが表示されます。ログファイルがロードされるのを待っている間に、さまざまなビデオを検索して再生できます。

ロードプロセスをキャンセルするには、**キャンセル**をクリックします。

Web サイトおよびサポート

Web サイト

Hewlett Packard Enterprise Information Library	http://www.hpe.com/info/EIL
Smart Update Manager	http://www.hpe.com/servers/sum
Smart Update Manager Information Library	http://www.hpe.com/info/sum-docs
Smart Update ツール	http://www.hpe.com/servers/sut
Smart Update ツールの Information Library	http://www.hpe.com/info/isut-docs
Service Pack for ProLiant	http://www.hpe.com/jp/spp
Service Pack for ProLiant のドキュメント	http://www.hpe.com/info/spp/documentation
Service Pack for ProLiant のダウンロード	http://www.hpe.com/jp/servers/spp_dl
Service Pack for ProLiant カスタムダウンロード	http://www.hpe.com/servers/spp/custom
HPE SDR サイト	http://downloads.linux.hpe.com

上記以外の Web サイトについては、[サポートと他のリソース](#)を参照してください。

サポートと他のリソース

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ・ ライブアシスタンスについては、Contact Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトにアクセスします。

<https://www.hpe.com/assistance>

- ・ ドキュメントとサポートサービスにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの Web サイトにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

ご用意いただく情報

- ・ テクニカルサポートの登録番号（該当する場合）
- ・ 製品名、モデルまたはバージョン、シリアル番号
- ・ オペレーティングシステム名およびバージョン
- ・ ファームウェアバージョン
- ・ エラーメッセージ
- ・ 製品固有のレポートおよびログ

- ・ アドオン製品またはコンポーネント
- ・ 他社製品またはコンポーネント

アップデートへのアクセス

- ・ 一部のソフトウェア製品では、その製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするためのメカニズムが提供されます。ご使用の製品のドキュメントで、ソフトウェアの推奨されるソフトウェアアップデート方法を確認してください。
- ・ 製品のアップデートをダウンロードするには、以下のいずれかにアクセスします。

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター

<http://www.hpe.com/support/hpesc>

Hewlett Packard Enterprise サポートセンター：ソフトウェアのダウンロード

<http://www.hpe.com/support/downloads>

Software Depot

<http://www.hpe.com/support/softwaredepot>

- ・ eNewsletters およびアラートをサブスクライブするには、以下にアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/e-updates-ja>

- ・ お客様の資格を表示したりアップデートしたり、契約や保証をお客様のプロファイルにリンクしたりするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **More Information on Access to Support Materials** ページにアクセスします。

<http://www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials>

-
- ❗ **重要:** 一部のアップデートにアクセスするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスするときに製品資格が必要になる場合があります。関連する資格を使って HPE パスポートをセットアップしておく必要があります。
-

カスタマーセルフリペア (CSR)

Hewlett Packard Enterprise カスタマーセルフリペア (CSR) プログラムでは、ご使用の製品をお客様ご自身で修理することができます。CSR 部品を交換する必要がある場合、お客様のご都合のよいときに交換できるよう直接配送されます。一部の部品は CSR の対象になりません。Hewlett Packard Enterprise もしくはその正規保守代理店が、CSR によって修理可能かどうかを判断します。

リモートサポート (HPE 通報サービス)

リモートサポートは、保証またはサポート契約の一部としてサポートデバイスでご利用いただけます。リモートサポートは、インテリジェントなイベント診断を提供し、ハードウェアイベントを Hewlett Packard Enterprise に安全な方法で自動通知します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて、迅速かつ正確な解決が行われます。ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くおすすめします。

ご使用の製品にリモートサポートの追加詳細情報が含まれる場合は、検索を使用してその情報を見つけてください。

リモートサポートおよびプロアクティブケア情報

HPE 通報サービス

<http://www.hpe.com/jp/hpalert>

HPE プロアクティブケアサービス

<http://www.hpe.com/services/proactivecare-ja>

HPE プロアクティブケアサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecaresupportedproducts>

HPE プロアクティブケアアドバンスドサービス：サポートされている製品のリスト

<http://www.hpe.com/services/proactivecareadvancedsupportedproducts>

保証情報

ご使用の製品の保証またはサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報に関するドキュメントを確認するには、下記の Web サイトを参照してください。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

追加保証情報

HPE ProLiant と x86 サーバーおよびオプション

<http://www.hpe.com/support/ProLiantServers-Warranties>

HPE エンタープライズサーバー

<http://www.hpe.com/support/EnterpriseServers-Warranties>

HPE ストレージ製品

<http://www.hpe.com/support/Storage-Warranties>

HPE ネットワーク製品

<http://www.hpe.com/support/Networking-Warranties>

規定に関する情報

安全、環境、および規定に関する情報については、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからサーバー、ストレージ、電源、ネットワーク、およびラック製品の安全と準拠に関する情報を参照してください。

<http://www.hpe.com/support/Safety-Compliance-EnterpriseProducts>

規定に関する追加情報

Hewlett Packard Enterprise は、REACH（欧州議会と欧州理事会の規則 EC No 1907/2006）のような法的な要求事項に準拠する必要に応じて、弊社製品の含有化学物質に関する情報をお客様に提供することに全力で取り組んでいます。この製品の含有化学物質情報レポートは、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/reach>

RoHS、REACH を含む Hewlett Packard Enterprise 製品の環境と安全に関する情報と準拠のデータについては、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/ecodata>

社内プログラム、製品のリサイクル、エネルギー効率などの Hewlett Packard Enterprise の環境に関する情報については、次を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/environment>

ドキュメントに関するご意見、ご指摘

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、何らかの誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 (docsfeedback@hpe.com) へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている

刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。